



「もうすぐ春ですね」

的なアイリスの写真が載っていた。寒咲きアヤメは、冬の寒い時期に花を咲かせるめずらしいアヤメである。アヤメは普通、冬に葉が枯れるが、寒咲きアヤメは冬も葉は青々としている。残念なのは、花が葉よりも低い位置で咲くことである。

キャンディーズが歌う「アヤメ」が咲いていないが、もうすぐ春である。三寒四温どころではなく、

花言葉は「思慮深い」とか「よき訪れ」。もう一つ、庭で元気がないのが「レンテン・ローズ」。

英語では「ワイン・アイリス」と呼ばれる。地中海沿岸域、ギリシャ、トルコ、チュニジア、シリア西部が原産地であり、初めて知った。

キリスト教の暦で、イースターまでの40日間をレントと言います。この時期(1月から3月頃まで)に咲くことか



下を向いて咲くレンテン・ローズ

を感じさせる。切つて野生化している。そういえば「世界の花・別巻ヨーロッパ・アフリカ篇」で、クレタ島の農道や道端に咲く雑草

の時期(1月から3月頃まで)に咲くことか

トの受難と十字架を思い、花もうつむいて咲くのだと言われる。花の少ない早春に咲き、葉は一年中青々と



寒咲きアヤメ(ヨーロッパでは冬のアイリスとも呼ばれる)

一方、庭では「寒咲きアヤメ」が咲いていないが、もうすぐ春である。三寒四温どころではなく、5月ぐらいの陽気の日も。家の前の土手に咲く水仙も種類が増してきた。一段と華やかさを感じさせる。切つて野生化している。そういえば「世界の花・別巻ヨーロッパ・アフリカ篇」で、クレタ島の農道や道端に咲く雑草

最近、目立つニュースや気がかりな報道は、コロナ・ウイルス、地球の温暖化など暗いものが多い。私たちがこんな日常に追われているのを横目に、植物たちは、雪のない冬の間でも、しっかりと訪れる春の準備をしている。1月に咲く花、2月まで待つ花、梅一輪、一輪ほどの暖かき」と言うが静かに、着々と自分の出番を準備している。

「花見」といえば奈来月が「サクラサク」になるよう祈りたい。